
スペイン語の総合的な運用能力向上と 動機づけの強化のための語彙プロジェクト

モラレス・ラマ, アレハンドロ／菊田 和佳子／片岡 喜代子／
バロン・ロペス, アルトゥーロ／落合 佐枝

1、2年の必修スペイン語演習の授業は、日本人教員が担当する文法・講読とネイティブ教員が担当する会話に分かれているが、共通の問題点として認識しているのが語彙力の不足である。自動翻訳などで簡単に文の意味を調べられるようになった今、知らない単語を辞書で引きながら予習し、自分で単語帳を作って覚えていくという地道な作業をこなす学生は少数派になってきている。学生が初級文法を終える前に自分の興味のあることがらについて何かを述べたり、平易なテキストを理解したりするためには基礎語彙の習得が欠かせないが、表面的に文の意味をとり、テスト前に一時的に教科書を暗記するだけではその力はいってこない。むしろ、授業が単なる暗記項目となり、学年が進むと動機づけが落ちていく学生も多々られる。

このような事態を打開するためには、学習が自分と社会をつなげ、自分の人生を豊かにするものであると感じさせて動機づけを高めることが第一だろう。目下のところ、さまざまな試みにもかかわらず、必ずしもそのような学習に持って行っていないのが実情である。本研究グループは、文法・会話という枠組みを超えて、真のスペイン語運用能力につながる語彙学習を模索するために発足し、今年度がその初年度である。

今年度、具体的に行ったことは、1. 語彙学習に関する先行文献を読む、2. 文法・会話のクラスがそれぞれ別々にWebClassや学習アプリを使って行っている語彙学習支援活動の状況を共有する、3. 動機づけを高めるためにどのような方法があるか意見を出し合う、4. 辞書が効果的に使用されていない現状や自動翻訳の使用状況など

学習ツールに関する問題点を確認する、の4点である。

議論を進める中で、以下の課題が指摘されている。

- 授業外に自分のリズムで学習できるという意味で学習アプリなどの使用は有効であるものの、その使用が現状では部分的なものにとどまっている。
- 学生にとっては文法と会話で異なる語彙リ

ストを与えられているので統一できるか今後検討する必要がある。

- 単に与えられたリストで単語テストを行うだけではなく自律性を促すようなより良いリストの使用法を考えるべきではないか。

今後も定期的に研究会を行い、2024年度中に語彙学習統一システムの試験的運用を行うことを目指して作業を継続していく予定である。

